

ショウブ・アヤメ・カキツバタ・ハナショウブ

2021.4.12

名称	アヤメ	カキツバタ	ハナショウブ
漢字	菖蒲 (文目、綾目)	杜若 (書付花；衣の染料)	花菖蒲
分類	アヤメ科アヤメ属	アヤメ科アヤメ属	アヤメ科アヤメ属
生息地	陸上の乾燥地	水湿地	半乾燥～水湿地
生息	群落	群落	他の植物に混じって点在
花の時期	5月上旬～中旬	5月中旬～下旬	6月上旬～下旬
花の大きさ	小輪	中輪	大輪
花の色	紫、まれに白	青紫、紫、白	紫、白、桃、青、黄
花の模様	外花被片（前面に垂れ下がった花びら）に網目模様	外花被片の中央部に白、淡黄色の斑紋	外花被片の中央部に黄色の斑紋
葉	細長い	幅が広い	白い筋
背丈	40～60cm	50～70cm	80～100cm
その他	古くは「はなあやめ」		色多数、絞りや覆輪などとの組み合わせを含めると5,000種類、野生はノハナショウブ
写真			

・ショウブはショウブ科ショウブ属
(古くはサトイモ科)



・いずれ「あやめ」か「かきつばた」



ボタン・シャクヤク

2021.4.29

名称	ボタン	シャクヤク
漢字	牡丹 (花王、富貴花、芍薬木)	芍薬
分類	ボタン科ボタン属	ボタン科ボタン属
種類	木本性 (樹木) 落葉低木	草本性 (草) 多生草
枝分かれ	幹があり、枝分かれして花を咲かせる 	まっすぐに茎を伸ばし、伸びた茎の先に花を咲かせる 
越冬の特徴	秋に落葉し、枝や幹はそのままで冬を越し、春に枝から新芽を出す木	冬になると根を残し茎が枯れ、春に新芽を出す草 (多年草)
成長	枝の端から新芽が出る	土地の中から赤い芽が出る
開花時期	4月下旬～5月中旬 (晩春)	5～6月 (初夏)
	改良種も多く気候変動もあり、開花時期では見分けにくい。ボタンには冬に咲く寒牡丹や冬牡丹もある	
花の散り方	一気に、そして豪快に散る	最後までしがみつinaながら、少しずつ散る
つぼみ	バラのように先端が尖っている 	丸くきれいな球形 
特徴	赤い花びらと黄色い花のしべの鮮やかなコントラスト	ボタンよりコントラストが鮮明ではない
香り	基本的に香りがない	バラに似た爽やかな香りがある

<p>葉</p>	<p>ツヤが無くギザギザの切れ込みが入る、丸く平たい葉の羽状複葉</p> 	<p>ツヤがあり切れ込みは無く、やや丸みの帯びた細長い3つの葉が集まる二回三出複葉</p> 
<p>背丈</p>	<p>2~3m程度まで</p>	<p>60cm程度</p>

・「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」

芍薬は枝分かれせず真っすぐ伸びるので、スラリとした立ち姿の華麗な美人、牡丹は枝分かれして低く横に広がっていくので、落ち着きある清楚な美人

・2つとも英語名は「peony」

モミジ・カエデ

2021.4.29

名称	モミジ	カエデ
漢字	紅葉	楓
分類	ムクロジ科カエデ属	ムクロジ科カエデ属
名前の由来	<p>モミジは、秋に草木が黄色や赤色に変わることを意味する動詞「もみづ」に由来し、それが名詞化して「もみぢ」になり、それから転じて、特に目立って色を変えるカエデの仲間を「モミジ」と呼ぶようになった</p> <p>平安時代より染料として使用されてきたベニバナなどから染料を揉みだし水色に染み出すという言葉で『もみづ』と定義していた</p>	<p>カエデは、葉の形がカエル（蛙）の手に似ているので、「かへるで」、後に「カエデ」と呼ばれるようになった</p>
種類	大きく分ければ3種類、イロハモミジ・ヤマモミジ・オオモミジ	世界でカエデ属は150～200種。日本には約28種
		
サトウカエデ	<p>カナダの国旗はサトウカエデ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

- ・カエデ科カエデ属及びキンセンセキ属がムクロジ科に統合された
- ・英語では両方とも「maple」。特にモミジは「Japanese maple」
- ・盆栽界では、葉の切れ込みが深いものがもみぢ、浅いものがカエデとされているが、実は「明確な違いがない」というのが正しい答え。

オトギリソウ科オトギリソウ属

2021.6.10

< 1 >

	キンシバイ	タイリンキンシバイ
漢字	金糸梅	大輪金糸梅
別名		
学術名	<i>Hypericum patulum</i>	<i>Hypericum hidcote</i>
開花時期	5～7月	5～7月
花径等	2.5～4cm	8cm位で全開
オシベの長さ等	長さは花弁の1/2程度	長さは花弁の1/2以下
オシベの先の葯の色		
葉	2列対生	十字対生
特徴		キンシバイに比べて花・葉が大きく、花色の黄色味が強い
その他		花が目立ち強健なので、よく使われる。 ヒペリカム・ヒドコート
写真		

< 2 >

	セイヨウキンシバイ	ビヨウヤナギ
漢字	西洋金糸梅	未央柳 (美容柳)
別名	ヒメキンシバイ	
学術名	<i>Hypericum calycinum</i>	<i>Hypericum monogynum</i> <i>Hypericum chinense</i>
開花時期	6～7月	5～7月
花径等	8cm位	8cm位
オシベの長さ等	花弁より長い、直線的	花弁より長い、カールしている
オシベの先の葯の色	赤橙色	黄色～白
葉	2列対生	十字対生、 ギサギサなし
特徴	花期の終盤は見た目が汚らしい	
その他	ヒペリカム・カリキナム	白居易の長恨歌、玄宗皇帝と楊貴妃の歌。未央(ビオウ)宮殿とは前漢の都 長安の宮殿
写真		

< 3 >

	オトギリソウ	セイヨウトドリ
漢字	弟切草	西洋弟切
別名		St. John's Wort
学術名	Hypericum erectum	Hypericum perforatum
開花時期	6～8月	6～8月
花径等	1.5～2cm	1.5～3cm
オシベの長さ等		
オシベの先の葯の色		
葉	十字対生	十字対生
特徴	ガクや花弁に黒線や黒点が多い。 日当たりが良い山地や丘陵地に生える	薬用やハーブ
その他	春頼（ハルヨリ）という名の鷹匠が、秘密にしていた薬草を弟が密かに漏らしたことに激怒し、弟を切り捨てた。その血しぶきがオトギリソウに飛び散り、以来、葉に黒色の斑点が付いたといわれている。	聖ヨハネの日（6月24日）の頃までに花が咲き、伝統的にその日に収穫されたためその名が付いた。地上部全体が刈られ乾燥してハーブティーとして用いられる。
写真		

< 4 >

	コボウズオトギリ
漢字	小坊主弟切
別名	
学術名	Hypericum androsaemum
開花時期	5～7月
花径等	1.5～2cm
オシベの長さ等	花弁とほぼ同じか、わずかに短い
オシベの先の葯の色	
葉	十字対生
特徴	果実は丸く肥大で、赤から紫、黒色へと熟すにつれ色が変わる
その他	ヒペリカム・アンドロサエマム
写真	